

「市民まちづくりワークショップ」で

将来の塩竈を描きます

今月は、第6次長期総合計画に市民の皆さんの声を反映させる取り組みの一環である「市民まちづくりワークショップ」を紹介します。

ワークショップとは、本来は「作業場」「仕事場」を意味する言葉ですが、参加者の主体性を重視した体験型の講座などをいいます。

「市民まちづくりワークショップ」は、市民の皆さんに、まちづくりへの理解を深めてもらうとともに、今後も主体的に関わっていただける方の輪を広げることも目的とし、次の3つの内容で実施します。

○ミニシンポジウム

市民参加の機運を醸成するため、ミニシンポジウムを開催します。ゲストスピーカーを招いての講演や、ワークショップについて理解していただくための簡単なワークショップ体験を予定しています。

○ワークショップ

ワークショップは、4月から8月にかけて全5回実施します。新たなまちづくりに向けて、皆さんが考える塩竈らしさや課題の掘り起こしなど、参加者同士で自由に意見を交換し、市民目線で「将来の塩竈」を描いていただきます。

その際、活動の円滑な進行を支援する役割のファシリテーターが、皆さんから意見を引き出し、さまざまな意見を整理して認識の共有を図ります。

第5回目では編集会議を行い、各回で出されたアイデアを提案にまとめ、計画に反映できるようにします。



第5次長期総合計画策定時の市民懇談会



◀カードなどを活用しながら、アイデアをまとめていきます(イメージ)

○シンポジウムでの成果発表

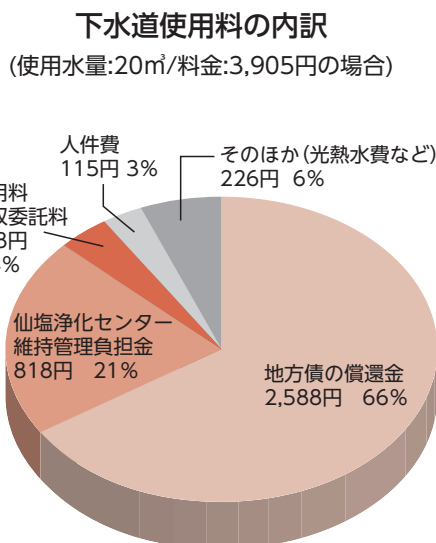
9月に実施予定のシンポジウムに併せて、ワークショップの成果を発表する場を設けます。各回の成果は市のホームページやSNSなどを通じて発信するほか、市内に展示することなどにより、多くの市民の皆さんと内容を共有していきます。ワークショップ参加者の募集については、3月号に掲載予定です。

政策課企画係 ☎3555-15631

下水道のこれから(全3回)

その1 下水道の現状

本市の公共下水道事業は、昭和33年度から整備を行い、平成30年度末には下水道普及率99.3%まで進んでいます。しかし、本市特有の事情である軟弱地盤対策などに多くの費用を要したため、下水道事業の地方債(市の借金の残高は平成30年度末で256億5,000万円)にのびります。市民の皆さんに納付いただいている下水道使用料の約3分の2は、この地方債の償還に充てられており、料金を高くしている要因となっています。



今後は人口減少に伴う使用料収入の減が見込まれることから、市民の皆さんに必要なサービスを持続的に提供していくためには、資産や経営状況を的確に把握し、事業運営の効率化や健全化をさらに図る必要があります。そのため、本市では令和2年度から「公営企業会計」への移行に向け取り組んでいます(3月号は「公営企業会計」を解説します)

下水道課下水総務係 ☎3641-2193